

宮城山岳通信 第9号

目次

宮城山岳通信の今後の編集・発行方針に関するお知らせ	遠藤銀朗	1 頁
定例役員会報告	事務局	2～4 頁
月例山行報告		
(A) 共益事業		
☆春山山行	三宅 泰	4～ 5 頁
☆梅雨払い山行	松田照夫	5～ 6 頁
(B) 公益事業		
☆第 5 回登山教室	佐藤昭次郎	6～7 頁
平成 29 年 7 月～10 月の行事予定	事務局	8 頁

宮城山岳通信の今後の編集・発行方針に関するお知らせ

会報編集・出版委員長 遠藤銀朗

平成 29 年 5 月 17 日に開催された日本山岳会宮城支部役員会において平成 29 年度の会報編集・出版委員会の構成が決定されました。これと併せて、今後の「宮城山岳通信」の編集・発行方針と従来の会報であった「宮城山岳」の発行再開について会報編集・出版委員会で検討することが承認されました。これらの決定を受け、その後 2 回に亘り会報編集・出版委員会を開催して「宮城山岳通信」および「宮城山岳」の編集・発行方針を審議し、その結果を取りまとめ 6 月 14 日に開催された日本山岳会宮城支部役員会にこれら 2 つの支部機関誌の今後の編集・発行方針に関する委員会案を提案いたしました。この結果、支部の季刊ニュースレターとして「宮城山岳通信」を毎年 4 号発行すること、および日本山岳会宮城支部会報として「宮城山岳」の毎年度 1 号の発行を再開することが役員会において決定されました。

上記の決定に付帯して、「宮城山岳通信」の発行については、その支部会員・準会員および支部友等関係者への速報としての役割を実現するために、これまでの編集・発行内容を変更して、役員会議事録、山行記録、その他の行事開催記録および行事予定等の連絡記事に限定した新着情報誌(ニュースレター)として発行することも、6 月 14 日に開催された役員会において承認されました。また、「宮城山岳通信」1 号あたりの総ページ数は A4 用紙 4～8 ページとし、会員に定型郵便または宅配便で送付可能なものとするとともに、E メールアドレスが登録されている支部会員(準会員を含む)および支部友には E メールへの添付ファイルとして「宮城山岳通信」を送付することにより、今後の支部会報等の発行に関連して必要となる費用の削減に努めることも併せて役員会において了承されました。

今後の「宮城山岳通信」の編集と発行および配布は上記の方針に従って行うこととなりますので、日本山岳会宮城支部関係者の皆様のご理解を宜しくお願い致します。

定例役員会議事録

☆平成 29 年 5 月定例役員会議事録

日 時：5 月 17 日(水)18:30～20:30

場 所：仙台市シバセンター 5F 会議室

出席者：富塚(和)支部長、遠藤副支部長、
佐藤、草野、三宅、千葉、柴崎、
松田、鈴木、木皿、鳥田、富塚(真)
計 10 名

《審議事項》

(1) 「山の日」記念事業について

8/11～12、宮城蔵王で実施する事で、
山形支部と合意した旨報告。承認を得た。

(2) 平成 29 年度役員(会計監事)の欠員 について

役員は総会議決事項であるが、暫定的
に欠員を補充。草野新役員を当てること
が提案され、了承された。

(3) 平成 29 年度各種委員会委員長、委員 の決定について

役員会承認事項である上記決定につい
て事務局から(案)を提示、一部訂正の
上、了承された。

(4) 平成 29 年度の役員連絡網について

新役員を含め新体制の役員連絡網を事
務局から提示、周知するものとした。

(5) 支部創立 60 周年記念事業の実施につ いて

事業実施について事務局から提案され、
了承された。

記念事業内容についての検討は山行
集会委員会での意見有り。

(6) 第 4 回登山教室(仙台カゴ)につい て

下見の結果、残雪多く、6/4 に変更す
る旨、山行集会委員会から提案あり。承
認される。

(7) 『宮城山岳通信』第 8 号の編集につい て

会報編集出版委員会から 5 月に編集作業
を行うことについて、了承された。

(8) 6 月梅雨払い山行について

担当から、雁戸山で実施する旨提案さ
れ、了承された。

(9) 夏山山行遠征登山について

担当から、北アルプス焼岳で実施する
旨提案され、了承された。

《報告事項》

(1) 総務・財務委員会からの報告

・山岳関係機関等からの情報受理状況

(2) 山行集会委員会からの報告

・春山山行(戸神山)結果

(3) 自然保護・科学委員会からの報告

・H29 年度全国自然保護集会参加募集

《その他》

①「宮城山岳通信」の速報性の確保と「宮

城山岳」の復活の意見あり

この意見に対し、会報編集・出版委員会で審議し、今後の「宮城山岳通信」および「宮城山岳」の編集・発行についての方針案を役員会に提案することとした。

②講演会の案内

千葉役員から、南極越冬隊員の講演会がメディアテーク(6/10)である旨の報告あり。

☆平成 29 年 6 月定例役員会議事録

日 時：6 月 14 日(水)18:30~20:30

場 所：仙台市ソバセンター 5F 会議室

出席者：富塚(和)支部長、遠藤副支部長、高橋(二)、佐藤、草野、三宅、

千葉、松田、木皿、鳥田、富塚(真)

計 11 名

《審議事項》

(1) 支部創立 60 周年記念事業および特別委員会の設置について

事務局から、支部創立 60 周年記念事業として①記念祝賀会の開催、②記念山行(国外、国内)の実施、③「宮城山岳記念特集号」の発行の 3 つの記念事業を実施すること、および記念事業の推進体制を整えるために、5 月定例役員会の意見も踏まえ、支部規約に基づく特別委員会を設置することが提案され、了承された。また、特別委員会の委員は、支部長、副支部長及び予定する事業に関与すると考えられる委員会から選任することについても了承された。また、当該委員会の委員長は支部長が、事務局は副支部長が担当すること、および委員選任については支部長ならびに関連委員会の委

員長に一任することが了承された。

なお、意見として支部創立 60 周年記念事業(2018 年)と第 35 回東北北海道地区集会(2019 年)を関係支部参加者の負担を考慮して合同で実施してはとの意見があった。

(2) 支部会報の今後の編集発行・配布方針について

会報編集・出版委員長から、会報編集・出版委員会の審議結果として、平成 29 年度より「宮城山岳」を支部報として復刻し、毎年度 1 号を発行する旨、また、従来の「宮城山岳通信」は衣替えし、速報性のある季刊ニュースレターとして、年 4 回発行する旨等の提案があり、了承された。

(3) 第 4 回親子登山教室について

山行集会委員会(担当：遠藤副支部長)から、実施に向けた取り組みとして、広報用ポスターの掲示を関係する小学校に依頼する旨の提案があり、了承された。

《報告事項》

(1) 総務・財務委員会からの報告

① 第 33 回東北北海道地区集会参加報告

(第 34 回：山形、第 35 回：宮城)

② 山岳関係機関から情報受取状況

- ・ JAC「山の日」リーフレット 2 配布
- ・ 支部主催山行の登山計画提出の励行
- ・ 本部総会返信はがきの促進依頼
- ・ 支部長&事務局長新名簿の支部配布

③ 第 33 回全国支部集会(茨城)参加者募集

(2) 山行集会委員会からの報告

- ・ 第 4 回公募登山(仙台カゴ)結果
- ・ 「山の日」記念合同山行事業の進捗状況

(3) 海外・高所登山・医療委員会からの

報告

・第4回アジア・太平洋登山医学会学術集会&第37回日本登山医学会学術集会
(松本市)参加結果

(関連して、簡易登山医学講習会を晩餐会の前段で実施することとした。)

《その他》

(1)訂正版2017年度宮城支部役員連絡網
訂正名簿を再配布する。関連して、委員会名簿のうち、自然保護・科学委員会

及び指導・遭難対策委員会の名簿を訂正・変更する。加えて規約にない委員会名称があるため、適切な名称に改称することとした。

(2)平成29年度本部総会参加者名簿
参加者支部長のみ

(3)榎有恒祭へのお誘い

千葉役員から、お誘いのあった北九州支部実施の榎有恒祭について報告有り。

月例山行報告

【A】共益事業

☆春山山行（戸神山）

- ・実施日：平成29年4月30日（日）
- ・山域（コース）：白沢峠登山口—女戸神山—鞍部—男戸神山—鞍部—白沢峠登山口
- ・参加者：（会員）横山 哲、太田 正、遠藤銀朗、佐藤昭次郎、富塚和衛、富塚真味子、三宅 泰、千葉正道、松田照夫
（支部友）村上敏郎、赤間敏子、津田久美子、川島郁子
（一般）相原政稔、佐々木裕一
（計15名）
- ・報告：三宅 泰

今年度最初の春山山行は登山道の整備、清掃を兼ね、戸神山で実施されることになった。参加者は太田会員の知人2名を含む計15名。

8時30分、広瀬市民文化センターに集合後、各々、車に分乗して白沢峠登山口着（仙台市水道局白沢配水所入口）。各自、ごみ袋、鎌、ナタ、ノコギリをもってさっそく登山開始。ひと冬越した登山道は、やはり雪の影響もあってか、全般に倒木、あるいは笹が登山道を塞ぎ、落葉、木の枝等が散乱していた。

登山口から10数分歩いていくと正面に男戸神山（オドガミ）が見えてくる。付近

はちょっとした平坦な広場になっていて、ここから2つのコースが分かれている。一つは直接、男戸神山に登る表コース。もう一つは男戸神山の西側をグルリと迂回し、先に女戸神山（メドガミ）を経て男戸神山へ至る裏コースである。

私たちは裏コースをたどった。途中、倒木が登山道を塞いでいる箇所が数箇所あり、その都度、枝や幹をノコギリで切り落としたり、みんなで押しのけたりの作業が続く。そのご褒美だろうか、登山道の脇には、所々、山菜のコシアブラ、あるいはタラップが見受けられた。まさに山の恵みである。

女戸神山を経て一旦、鞍部に下り、急坂を上りきって男戸神山頂着。天気も良く、周囲の大小の山々、仙台市中心部のビル群を眺めながら大休止。

下山路は表コース、こちらも裏コース同様、登山道に倒木が多く、皆で取り払いながら最初の広場に一巡し、白沢峠登山口へと降りた。

<閑話休題>

戸神山には、比較的、最近になって指導標、案内板がみられるようになった。自治体のもではなく、全てがボランティアの手によるものとされる。そのためだろうか、各所要所に確かな名称がない。例えば、登山口から10数分の平らな場所を、ここでは「ちょっとした平坦な広場」と書いたが、この場所は表、裏、両コースの重要な基点となっている。名前が付いていれば、と思った。ところで、今回の登山口も、仙台市水道局白沢配水所入口からだったが、「白沢峠登山口」でよかったかどうか。

☆梅雨払い山行（雁戸山）

・実施日：平成29年6月18日（日）天候曇りから午後一時霧雨

・山域：雁戸山（標高1485メートル）

・参加者：（会員） 富塚和衛、遠藤銀朗、佐藤昭次郎、太田 正、鳥田笑美、草野洋一、松田照夫

（準会員） 新井田

（支部友） 針生紀子、蔭山美穂子 赤間敏子

（会員友人） 相原政稔、佐々木祐一

（計13名）

・報告：松田照夫

仙台市役所前に集合4台の車で分乗して7時半に出発しました。参加者12名 現地集合地点に直行1名（遠藤銀朗会員）現地集合者の時間を考慮し、高速道路を利用しました。（車代一人1000円）東北道宮城IC—山形道—笹谷トンネルを経て一関山IC出て旧道286号笹谷峠へ向かい、笹谷峠八丁平駐車場8時半到着しました。

富塚支部長挨拶いただいた後、簡単な打ち合わせを済ませて8時45分に登山を開始しました。梅雨時期でもあり、雲が低く垂れ込み、少し肌寒い感じの中の登山開始でしたが山工小屋前から樹林帯に入ると、風もなく比較的快適な状態の中を進みました。日曜日でもあり、数組の登山者が前後登山しておりました。関沢コース分岐で小休止して、カケスガ峰宮城コースへの分岐で10時半更に県境尾根東側の傾斜をトラバースしていく登山道を経て滑川分岐点で

小休止。風が西側谷からと東側谷からの風で、気流の変化がありガスが行ったり来たり、県境尾根の梅雨時の気流の変化を感じました。気流のおかげもあり、見通しも良くなったり、悪くなったりで雁戸山が見えたり隠れたり、又蔵王連峰熊野岳周辺が雲間から見えて、私達を楽しませてくれました。途中、支部長が登山をだいすきになるキッカケになった高山植物ベニハナイチャクソウを見つけ、ロマンチックな話を伺いました。

足元にはイワカガミが満開で、やせ尾根蟻の戸渡りも快適に、11時40分には山頂に着きました。山頂で約40分昼食休憩薄く鳥海山、月山も見えました。支部友 友人の須賀川の太友美千代さんと山頂で合流しました。太友さんは刈田、熊野、名号を縦走して合流した方です。ゆっくり山頂で景色を見たり、集合写真を撮り、12時30分ごろ下山開始。カケスガ峰を経て、通称宮城コースを下山。有耶無耶の関あとより八丁平駐車場に無事下山しました。15時着解散式をして現地解散 帰路へと向かいました。

梅雨時期らしい楽しい梅雨払い山行でした。

【B】 公益事業

☆第5回登山教室（仙台カゴ）

- ・実施日：平成29年6月4日(日)
- ・山域(コース)：仙台→山形東根市→J.J スキー場→柳沢小屋→林道終点駐車場

→栗畑→仙台カゴ分岐→平澤翁レリーフ前→山頂 (往復)

- ・参加者：(会員)佐藤昭次郎、三宅泰、遠藤銀朗、高橋二義、横山哲、川名久子、(準会員)新井田祐治、樫野光永、山田ふき子

(支部友)蔭山美緒子、針生紀子、津久井宏、菅原幸寿、赤間敏子

(一般)小山敏男、佐藤ナツ子、菊池しづ子、川嶋民子、工藤千鶴子、斎藤みい子、佐藤洋子、白幡典子、鷺見登紀子、森宮子、田中真理子、高瀬邦雄、高瀬英子、山田孝司

(計28名)

- ・報告：佐藤昭次郎

平成29年5月21日、新支部長の下、宮城支部5月期例会山行に公募者を募る形で(公益事業)として計画されました。「仙台カゴ」は昨年久々に支部山行として取り上げた、支部としても特別大事な山と思います。それは宮城支部唯一の名誉会員である平沢亀一郎氏(故人)を顕彰したレリーフがある事で宮城支部としては特に思いを寄せる山だからである。しかしルートが無く藪漕ぎを覚悟で入山しなければならない事などで、気になりながらもしばらく支部で入山していなかったが、昨年ルートを整備し公募登山の対象として行った。

参加者が、機会があれば登って見たかった山・・・との意見を聞き、これらを意識しルートを整備し、多くの愛好者に「仙台カゴ」に登って頂くことで、山への興味や関心と平澤名誉会員の存在を知って頂く事のきっかけになれば、との思いで今年度も公

募形登山教室として行う事とした。

先ずは下見を、だが昨年と同じ時期なのに残雪量がまったく違い、これは2, 3日で無くなる積雪量ではないと判断し2週間後にずらして6月4日の実行となった。

雪解けを待ち下見をし、ルート of 整備と安全策を施し、山名の標柱が損壊している事などを確認し、実行当日まで標柱を制作するなど、公募参加者を意識した取り組みとなった。

先の公募参加希望者に再確認しましたところ、他の行事と日程がかち合うなどで4名程減りましたが、延期したことにより「ふたくちさんぼ会」と一緒することとなり、総勢28名5台の車に分乗し柳沢林道終点駐車場を目指した。多少雲は有りますが、雨は無し登高にはもってこいの天気である。軽く体をほぐして、全体ミーティングの後30分ほど前に行くふたくちさんぼ会を追う。

この時期はブナの新緑や鶯などの野鳥たちも春の歓喜でにぎわう季である。雪解けしたばかりの道端には春の山野草が迎える。コブシ、ムラサキヤシオ、足元にはミヤマカタバミ、ツバメオモト、シラネアオイ、と賑やかだ。前に行く遠藤副支部長が、あっコマドリの声・・・馬の鳴き声に似た泣き方と言う、そうかと、昔馬がいた時代を思い起こした。

仙台カゴの分岐点で先発のふたくちさんぼ会の皆さんと合流、ここから先日ルートを切り開いた林の中へ、途中には未だ残雪があるなど昨年とは違う。歩き始めて2時間半ほどで山体基部の岩場へ、ここで平澤翁のお話を三宅会員から紹介した後、多くの参加者は山頂へアタック!

南面の岩壁をトラバース気味にテラスを

慎重に登る、その急登を越えた途端強風で身がすくむ。慎重にだよ! 思わず声が出る。山頂では強風で長居は出来ない、全員が揃ったところで間に合った仙台カゴの標柱を入れ記念となる記録写真を撮影した。

下りは更に慎重に、危険ポイントでは高橋(二)会員がビレーを取り公募参加者を下ろす。全員無事岩壁を下り胸をなでおろした。昼食タイムとなったのではあるが、この人数が落ち着く場所が得られず柳沢小屋まで下りる事にする。

ちょっと遅めの昼食となったが、小屋内で参加者の紹介や感想をいただき、和やかな中に参加者との懇親を深めて、散会とした。

日本山岳会宮城支部の平成29年7月～10月の行事予定

- 7月12日 定例役員会
7月22日～24日 (共益事業) 夏山遠征山行(長野県上高地、焼岳登山)
7月30日 (共益事業) 宮城支部納涼ビアパーティー(ホテルJAL シティー仙台)
8月6日 (公益事業) 第4回親子登山教室(仙台市、戸神山登山)
8月11日～12日 (公益事業) 山の日記念山行(山形支部との合同山行、南蔵王縦走)
8月17日 定例役員会
8月27日 (共益事業) 沢登山行(蔵王山域)
9月10日 (共益事業) 初秋山行(山域未定)
9月20日 定例役員会
10月8日 (公益事業) 第5回親子登山教室(山域未定)
10月18日 定例役員会

宮城山岳通信 第9号

発行 公益社団法人日本山岳会 宮城支部
発行日 2017年7月7日
発行人 富塚和衛
編集・出版委員 遠藤銀朗、千石信夫、富塚和衛、中條俊一、
細川光一、三宅 泰
事務局 983-0821 仙台市宮城野区岩切畑中9-12
富塚 和衛
Tel・Fax 022-255-7398 携帯 090-2790-3771